

節電のポイント

(別紙)

1. 節電の時間帯

電力需要が増加する**8時30分から20時30分**

2. 節電の割合

道内全域で、平常時よりも1割程度の節電が不可欠（東日本大震災後の節電目標並み）。ただし、発電設備の故障リスクや、病院・上下水道等の節電困難な施設があることも踏まえ、**家庭・業務・産業の各分野に対し、平常時よりも2割の節電を目指すことを要請。**

3. 各部門での節電対策

(1) 家庭

家庭での消費電力量では、照明が最大。テレビ、冷蔵庫などの待機電力も多い。

3割以上の消灯などの「家庭の節電対策メニュー」を、世の中に広く周知。

(2) 業務

照明の割合が非常に大きい。団体や企業に対して、「事業者の節電対策メニュー」を周知し、執務エリアの照明の間引きや、使用していないエリアの消灯を徹底。

(3) 産業

業種ごとに使用形態が異なる。関係省庁を通じた所管業界に対する節電要請とともに、道内の大口需要家に対する個別要請によって、最大限の対応。